

# Ohana

第50号 2020.12.29

- ・コロナ禍の所感
- ・リモート家族会
- ・リモート見学会
- ・リモート帰省
- ・昼食会
- ・休日の過ごし
- ・コロナ禍だから見えたこと
- ・延長利用
- ・焼き鳥販売
- ・相談支援
- ・ハグピア
- ・医務室だより



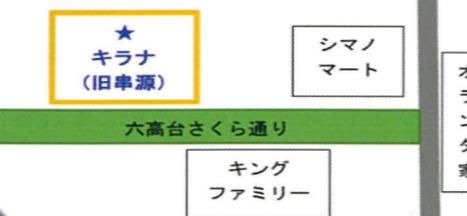
## キラナ前で焼き鳥販売のお知らせ

地元に愛される串源自慢の焼き鳥が復活販売中

毎週金・土曜日 16:00~19:00 キラナ前で販売中です。

国産鶏使用の豊富なメニューでお待ちしています♪週末お酒のおつまみにいかがですか?

キラナ住所:松戸市六高台4丁目200



## \*ご寄付を頂きました\*

堀内泰男様・福子様 100万円 他、ご寄付を頂いた皆様です。

阿佐美均様 大道麻子様 小野博雄様 川勝文雄様・美津子様 後援会ハーモニー会長:杉浦誠様

小林美加子様 坂本&パートナーズ会計事務所株式会社:坂本信行様 鳴根正善様 鈴木たか子様

松島マリ子様 ミサワホーム様 山内幹夫様 吉岡健一郎様 \*ありがとうございます\*

## 【後援会「ハーモニー」会員紹介のお願い】

後援会「ハーモニー」では、私たちとともに活動してくださる方、私たちの活動を支援してくださる方を広く募っています。後援会「ハーモニー」は、社会福祉法人まつど育成会が目指す、障害者の年代ごとに応じた支援体制(障害者総合支援法に基づく施設入所支援、グループホーム、ケアホーム、多機能型通所施設、地域活動支援センター等の就労場所の確保など)を支援することを目的に設立されました。これらの各種事業を成功させるためには安定的な経営基盤が必要です。後援会「ハーモニー」への期待も大きなものがあります。つきましては、本会の趣旨と現状をご理解いただき、企業、ご親戚、お知り合いの方、一人でも多くの方が会員としてご入会くださるようにご紹介をお願い致します。

【後援会費】一般会員 年額一口 3,000円(一口以上)

特別会員 金額は任意です。

【入会方法】入会ご希望の方、ご紹介いただきました方には、入会申込書と手数料無料の郵便振込取扱票をお送り致しますので、下記口座に会費を払い込みくださるようお願い致します。払込金受領書をもって領収書とさせていただきます。

【口座番号】00150-0-537583

【加入者名】後援会「ハーモニー」

【お問合わせ先】

〒270-2204 松戸市六実1丁目64番地

社会福祉法人まつど育成会内 後援会「ハーモニー」

TEL 047-389-4176 (担当:柳町・畠)/FAX 047-388-2714

## ～執筆者紹介～

- ・コロナ禍の所感 早坂 裕実子
- ・リモート家族会 神定 由美子
- ・リモート見学会 小田切 紅子
- ・リモート帰省 阿部 司
- ・昼食会 板橋 和真
- ・休日の過ごし 中山 将人
- ・コロナ禍だから見えたこと 松下 さつき
- ・延長利用 中谷 久司
- ・焼き鳥販売 吉田 翔
- ・相談支援 大友 有理子
- ・ハグピア 福地 奈理
- ・医務室だより 小室 弘美
- 秦野 敦子

第3弾を過ぎた頃からでしょうか。利用者から「お手紙はいつか?」という確認が入りましたとか、直接「早坂さん、お手紙はいつ?」という声が出るようになりました。これは苦しさからいつ解き放たれるのかという期待であることを察することが出来ました。ですが、その「お手紙」では、マスクの着用や、アルコール消毒は継続事項。送迎バスを密にならないように組み替える、緊急事態は入所と通所の方の作業エリアを分け、活動場所も仲間も変わるなど、イレギュラーなことがその都度状況によって変化していきました。何回待っても「もう大丈夫。」という内容のお手紙は出ません。ですが、利用者からは「何で?」「どうしてダメなの?」という反応ではなく、「そうか。」「コロナは怖い。」「お出掛けしないからマスクは買ってきて。」等々、納得して下っている方や、掲示物を見て「早坂さんコロナ剥がす?」と聞いてくる方。「ごめんなさい。大事なお知らせまだ剥がせません。我慢ですね。コロナ早く終わって欲しいですよね。」「うん。」と言って涙ぐみ、決して勝手に掲示物を剥がさないのです。

この様子から私はコロナによって学ばせて貰っていることに気付きました。利用者のこの反応を導いてくれている一つの要因は職員の伝える力です。職員たち多くの我慢を強いられ、行動規制を余儀なくされて、それだからこそ、同じ苦しみとして利用者の気持ちにしっかり寄り添いながら毎回、ゆるぎなく語ってくれていると感じました。そのことで、概ねを理解できる利用者が「まだかあ。」「コロナが終わるまで頑張ろう。」「帰ってきたらすぐにシャワーしよう。」等と職員と共に「お手紙」の内容を後押ししてくれました。この協力にも驚きました。

Non-Verbalの方達も職員の言葉より同朋の雰囲気を感じ取り、これは何か大変なことが起きていると察してくれる様子を感じました。また、統括施設長からの手紙は職員も、「苦しいね。いつなら大丈夫か統括に聞いてみよう。」と言うように、どこまでも共感的立場でいて貰えることも功を奏したように思います。「伝える力」と「お手紙」という「物」の存在が心に届く手立てになっていったようでした。

そして、現在14弾をお渡ししたところです。14回、内容はあえて言葉を省いたり、分かり易くしようとするのではなく、知り得た事実を出来るだけありのまま伝えることの努力をしました。社会で起きていること首相が言ったこと等も出来る限り書きました。勿論、文字は大きく、ルビを振り、使うべき漢字は漢字のままにして表現しました。

この取り組みから「合理的配慮」とは何かを改めて教えられた気がします。「彼らは難しすぎるだろう」とか「言葉が分からぬのだから理解は無理」と決めつけられて、説明はしても内容は端折られてしまうことが多いです。それが配慮と思うからです。それが親切と思うからです。

でも違っていたと反省します。世の中で起きていることは、我々と同様のキーワードで、きちんと意味を伝えなければならないということです。彼らの知る権利を阻害し、情報を省いて伝えてはいけないということです。環境の設定も、視覚支援も、手掛かりはありとあらゆる限り利用しました。そのうえで言葉を省かず伝えることの重さを思いました。

夏季帰省後の一週間はお部屋で一人ずつお食事をして頂いたりしました。そうしたことでも本当に素晴らしい適応して下さいました。夏季休暇中に、親御さんがコンビニくらい行こうよと誘ったら、「怖いからやめとく。」と言って行こうとなかったそうです。自分のお子さんの態度に、「お手紙の威力の凄さを知りました。」といった報告も頂きました。現在の状態が今までとも言えず、何なら安心ということも無く、先の見えない戦いが続きます。今までとは違う今だからこそ、今を前向きに生きることが未来に繋がると信じます。

一日に新たなり、日に日に新たなり、また日に新たなりー 「礼記一大学」より

統括施設長 早坂 裕実子

秋分の日が終わり、今年のお月見は素敵な満月を見ることが出来ました。秋分の日は昼と夜の長さがほぼ同じ、この日を境に太陽が昇っている時間が短くなり今はもう17時には真っ暗です。新型コロナウイルス感染症が報じられたのは昨年の冬。もうすぐ1年になるのです。新年早々の1月16日、日本で初の感染者が報じられ、あっという間に世界中で報道加速していました。「エボラ出血熱」や「SARS」の時はテレビから流れる情報を、地域や国が限定されて、どこか対岸で起きているという印象でした。しかし「新型コロナウイルス感染症」は対岸の火事ではないと感じたのは国内でもクラスター、院内感染の報道と共に、重傷者の報道でした。大変なことが起きているという恐怖。それでも、どこかで実感が持てずにいたのも事実です。ところが身近な施設や病院でもクラスターが発生し、一気に恐怖が現実のものに変わっていきました。

そんな時、たまたま別件でご連絡した「しもふさ学園」の小林理事長が、すでに対応マニュアルを整備されていることに焦りを覚えました。すぐにご教授を受けて、弊法人も早速マニュアルの作成に着手しました。万が一感染者が出た場合を想定してのゾーン分けや対応、準備すべき物をマニュアルに沿って看護師たちと協議し、食料やお菓子まで備蓄しました。整えれば整えるほどに、不安と緊張感は高まりました。不安で何度も小林理事長にメールを入れ、小さな確認をたくさんさせて頂きました。更に、松戸市は常磐線で上野まで24分。都内にも、柏にも船橋にもアクセス良く、通所利用者のご家族も多方面に通勤している方が多くいらっしゃいます。大都市東京の情報は他人事とは思えず、何が正しい判断かの確信も無く、日々恐怖と迷いの中にありました。

利用者にはどのように「命を守る」というテーマを伝えることが出来るのか悩みました。我々も本当のところ実態の定まらない怪物が、どこに現れるのか誰にも分かっていません。そんな見えない物の怖さをご本人達にどう伝えることが出来るのかということです。

「緊急事態宣言」以前から、法人としては「お手紙」という形で親御さんとご本人達と繋がろうと決めました。「新型コロナウイルス感染症対策第〇弾」として発信を続けました。方針をご理解頂くということは極めて重要なことです。親御さん達には法人の想いは届けられたのかと感じています。が、「お手紙」は利用者にとってどれ程の有効性があるのか、半信半疑でした。勿論、単語理解がやっとという方や、Non-Verbalの方もたくさんいらっしゃいます。その状況にあって「お手紙」は言語に頼って「伝える」のですから、どれほどの効力を發揮するかと迷います。

しかし、その迷いの中で、心理学者のアルバート・メラビアン博士の「メラビアンの法則」を思い出しました。「聞き手が重視するのは、言語情報が7%、聴覚情報が38%、視覚情報が55%。つまり、93%の言語以外の非言語的な要素を重視している」ということを発見したといわれるものです。つまりは「手掛けり」と「伝え方」に尽きるということです。「お手紙」は視覚情報としての手掛けり、「伝え方」については職員の力を借りなければなりません。

職員に「伝える」意気込みを持って向き合って貰わなければなりませんでした。そのためには他の視覚情報として、各事業所に厚生労働省からのチラシや、手洗いのチラシなど至るところに掲示をしました。玄関には宅急便の受け取り方の掲示もしました。その全てに「コロナ」というキーワードは確実に盛り込みました。

こんな時期だからこそ・・・



## 『リモート見学会』

# やってみました！

『見学会』と言えば、各事業所を実際に回り、目で耳で体感していただくものですが、このコロナ禍の中で見学会はリスクが高いのではないかということで、今年度は一旦見送ろう…。と7月の頭まで見学会は見送られてきました。しかし、まつど育成会の売りでもある見学会をやらずしてどうする！と考えた末、会議や打ち合わせで『Zoom』を使いだしたこともあり、「これだ！Zoomを使って見学会ができるんじゃないかな！」そんな案が出たのも束の間、とりあえず早速やってみよう！と始めたのが7月の下旬の見学会でした。会議や打ち合わせで使っていたとは言え、見学会をリモートで行うのは初めてなので、予め動画を撮っておいてそれを流せばいいのか…？いや、やっぱりライブ感は必須だよね！それぞれの意見を出し合いながら、練習を重ね、本番を迎えるました。



練習は行ったものの、カメラに向かって話すことに慣れていない私たちはいざ話し出した瞬間、頭が真っ白に。ところどころつかえながらも、一生懸命事業所の説明を行いました。職員へのインタビューもぎこちなさはありませんでしたが、現場職員の素直な返しに救われたりとまずはの出来ではありました。ですが、そこで満足するはずがありません！その後の会議では、「もっとあそこの場面はこうすればよかったね」「かりんとあゆーのつなぎをスムーズにした方がいいね」などと意見は絶えません。どうしたら見学者の方に臨場感を持ってもらえるだろうか、法人の魅力を存分に伝えたい、ということを念頭に何度も何度も練習を重ねました。



2回目の見学会では、1回目に比べると数段スムーズかつライブ感が伝わるものになりました。一方的にこちらが話すのではなく、この利用者さんが行っていることは日常のどんな場面に役立つか、見ている方がきっと質問したいんだろうと思うことを、司会者がリアルタイムで現場に聞いてみたりすることで、見学者の方の反応も随分違ってきました。

普段の見学会と違って、1時間のうちに全事業所を説明しなければなりませんが、皆自分の事業所を説明していく仕方ありません。限られた時間の中でいかに魅力を伝えられるか、見ている方を惹きつけられるかを考えようになり、回を重ねる毎に上達しています。初めは恥ずかしくてカメラ目線もぎこちなかった職員や利用者さんも今ではアナウンサーのようにしっかりと画面を見て、伝えてくれるようになりました。

そんなこと言っても所詮リモートでしょ、と思われるかもしれません。しかし、メリットもたくさんありました。画面上では一人一人の顔がしっかりと見られるため、反応がわかりやすいということです。また、一度にたくさんの方に見て頂けるということです。先日は、東京未来大学の学生さん向けに150人ほどの見学会を行いました。その後、「実際、現場に行って体験してみたい！」という声を多数いただきました！

コロナ禍ではありますが、あれはできない、これはできないと下を向くだけでなく、どういう形だったらできるのか考えて、皆でアイディアを出し合ながら色々なことに挑戦していかなければと思っています。

リモート見学会をぜひ体験してみたいという方は、お気軽にご連絡下さい。  
HPでもお申込みお待ちしています☆



## 「家族会」それは法人の最強の味方です



社会福祉法人まつど育成会にはご家族の方と作り上げてきた「家族会」という大きな文化があります。「家族会」は法人設立当初から、毎月開催です。出席は概ね90%を維持し、事業が増えてもこの参加出席率は維持されてきました。特徴的なことは、ご夫婦そろっての参加、お父様達の参加が際立つことです。立ち上げ当初は「毎月の開催など、そんなに集まって何をすることが…」というお声も聞かれました。しかし、「家族会」は着実に文化として定着し、ご家族・職員双方に刺激的な良い時間になっていきました。

法人は体育館など、大きな集会場所がなく、昨年から後援会ハーモニー・松戸市商工会議所のご協力を得て、商工会議所の会議室を開催場所とすることができます。集まるということは、駐車場や駅からのアクセスなど、高齢の親御さんにとっては負担も大きいものでした。それでも、いつも積極的に集まって下さるご家族に頭の下がる想いでした。

今年は2月からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大、緊急事態宣言等々、とにかく開催を見合わせざるを得ない状況が続きました。法人は事業所間でも「集まる」ということを避けるためにZOOMの導入を試みました。これまでも、移動時間短縮などを視野に試みようとするも、なんとなく慣例に従って「集まってしまう」という状況でした。課長以上の職員がコロナによってリモート会議の決断がついたのです。実際利用すると、なんと効率の良いことかと感動でした。日常の打合せもソーシャルディスタンスを意識し、職員達もリモート打合せに切り替えました。そしてこの経験を基に家族会役員にお声掛けすると、実はお父様方も仕事で利用され、難なくリモート役員会の開催となりました。

7月を過ぎる頃から、「家族会」が開催されないことの寂しさや、「せめてもの情報共有を」とお声が出始め、役員会で「思い切ってリモート開催してみよう」という決断へ。さて、ここからは多くのドラマと共に8月のリモート家族会開催となりました。スマホもパソコンもお持ちでないご家族は？アプリのダウンロードや操作は？アンケートと共に、接続の為に法人ができる事をお知らせし、事務職員も一丸となり、対応させて頂き、何とか1回目の開催にこぎつけたのです。開催してみると、職員が参加できる枠がない程に参加して下さったのです。

画面に慣れない緊張から「映っている？」「聞こえない」「見えているのかしら」等々、ミユートとカメラの操作もおぼつかず、開催時間を過ぎてもてんやわんやの家族会でした。

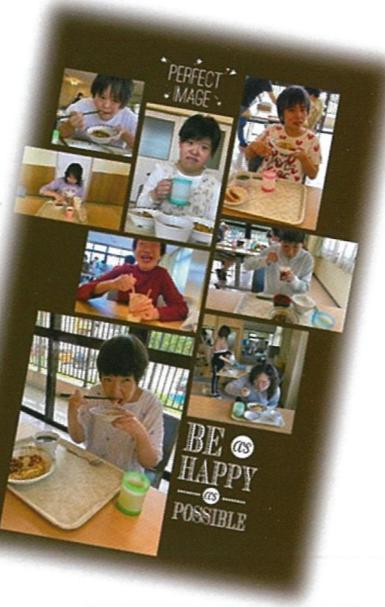
駐車場も気にせず、終わればすぐにいつもの生活に戻れることはご家族もメリットと感じられたようでした。緊急事態宣言時の行動自粛から、新人職員達も担当を変わった職員も直接ご家族とお会いできていませんでした。緊張感の中「お久しぶりでーす！初めまして。」と声を掛け合い、「顔が見える」「会える」というだけで、こんなにホッとするのだと、改めて「家族会の意義」を深く考えることとなりました。現在も毎月リモート開催は継続しています。歩行が困難になっていた方、腰痛から長時間座っていることが苦しくなっていた方、海外出張していた方等々、参加が叶わなくなっていた方達が、自宅から参加でき、満面の笑みを見せて下さったこと、海外からも何ら問題なく参加して下さること。本当に1年ぶりくらいに家族会で皆さんお顔を合わせた方もいます。

回数を重ねるごとに、どうすることで聞き易いか、見易いかといった意見交換も沢山できるようになりました。職員も画面に向かってひたすら緊張していましたが、エリア懇談会も、「楽しかったです」といえるようになりました。「コロナは苦しい・辛い」そう思いながらも、リモート家族会は法人の団結力を高める新たな環境になっています。高齢のご家族が、一生懸命操作を学び、とにかく前向きに挑んで下さる。これこそが法人が支えられた底時からであり、コロナ禍においてもその強さは変わらないのです。現在は200人規模の開催です。まだ、機種や操作の問題で参加が叶わない方もいます。今後、参加のための方法を検討中です。

これからも暫くは「リモート家族会」が続くことでしょう。そしてコロナが収束しても、「リモート家族会」と「通常の家族会」を併用して進めて行けそうです。多くを感謝して「リモート家族会」の報告とさせて頂きます。

まつぼっくりでは毎月1回お楽しみ昼食会を開催しています。始めはコロナ禍で外出を自粛しなければならず、余暇の過ごしの中で特に皆さんが楽しにされている「外食」の代わりとなる特別な時間を過ごしていただけたらと始まったこの企画。通算で8回の開催となりました。今では利用者の皆さんもとても楽しみにしてくださっており、月が替わると「今度の昼食会のメニューは何か？」と利用者さんの方からお話してくださる事もある程楽しにされている企画となり、メニューの希望も聞かれるようになりました！

「季節感や気軽に食べられるもの」をコンセプトにカップ麺やはたまた鰻や天ぷらなど…皆さんの反応も十人十色！カップ麺の回では作り方をマスターしている方もいれば、トライしてみよう！と言った心意気の方までいらっしゃり職員にも新たな発見となりました。



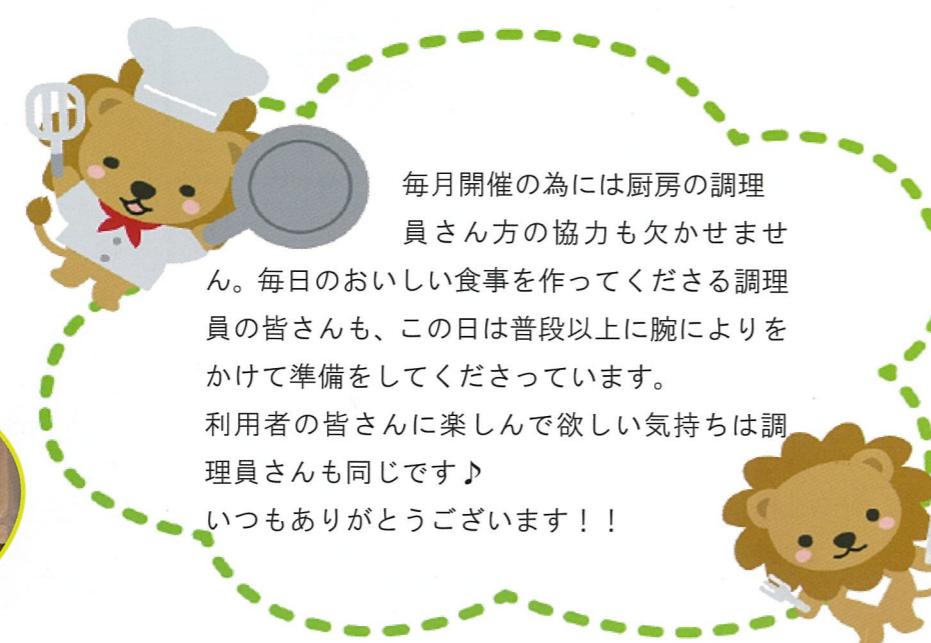
## お楽しみ昼食会



皆さん思いおもいに楽しめており、様々なメニューに舌鼓♪回を重ねると準備と一緒に行なってくださる利用者さんもいらっしゃり、楽しみ方の幅が広がってきています。



まつぼっくりの利用者さん全員にご参加いただいているが、3密を避ける為、入れ替え制でソーシャルディスタンスを保って楽しい時間を過ごしていただいている。



毎月開催の為には厨房の調理員さん方の協力も欠かせません。毎日のおいしい食事を作ってくださる調理員の皆さんも、この日は普段以上に腕によりをかけて準備をしてくださっています。利用者の皆さんに楽しんで欲しい気持ちは調理員さんも同じです♪いつもありがとうございます！！

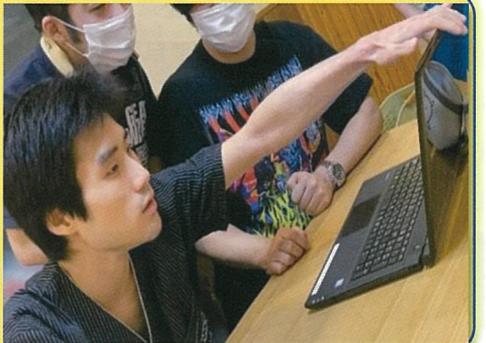


## リモート帰省

このページでは、リモート帰省を行っていく中での利用者の様子や職員が感じた思いを報告します！！

### 新型コロナウイルスによる帰省の中止

まつど育成会では、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ為、3月に帰省中止のお知らせをさせて頂きました。利用者の方にお伝えした際には、悲しまれる様子や納得がいかずに苛立つ様子が見られる方もいました。利用者の方々からすると、とても急な事であり、納得がいかない気持ちである事も理解する事が出来た為、少しでも親御さんと関わる時間を設けたいと思い、法人ではリモート帰省の出来る環境を整えてきました。



### リモート帰省への変更による利用者の変化



リモート帰省を始めたばかりの頃は、パソコンに映る親御さんの顔を見て不思議な表情を浮かべる方が多くいらっしゃいました。ですが、親御さんの声が聞こえてくると、安心されたような表情でパソコンに目を向ける様子がありました。変化はリモート帰省中だけではなく、日常生活の中でも見られ、毎週の帰省がなくなってしまっても、平日の作業時間は集中して取り組んで下さっている利用者の方が多く、次の帰省期間の為に頑張ろう、という思いが強く感じられておりました。

### リモート帰省中のエピソード

職員の立場としては少し寂しい場面でもあったのですが、親御さんの顔がパソコンにパッと映った瞬間、利用者の表情が見た事ない程の笑顔であった事。職員は身近に居させて貢っていますが、親御さんと利用者の方の関係がとても深い事を改めて感じた瞬間でした。また、親御さんと利用者の方が過去に行った場所について話している様子を見ることができ、リモート帰省だからこそ職員も一緒に聞く事が出来る光景だと感じ、通常通りに戻っても時折リモート帰省をする機会を設けても良いのではないかと思われる場面でした。



# 休日の過ごし～はなみずき南編～

今年度はコロナウイルスの影響で様々な施設行事が中止になってしまいました。また、人込みを避けるため休日の外食や外出も極力避けるようにしてきました。利用者の方の感染を防ぐ為とはいっても、利用者の方に楽しむ休日を楽しく過ごして頂きたい！そんな思いでユニット内でも利用者の方が楽しんで頂けるような休日計画を立て実行してきました。その様子をご報告致します。



まずは、毎年楽しみにしていた町内夏祭り！の代わりに、ユニット夏祭りを行ないました。お祭り気分が味わえるように、ビニールプールでジュースを冷やしたり、イカを焼きました。その他にもたこ焼きやうどん、フランクフルトを用意しました。職員の手際の悪さに待ちきれなくなったSさんが「僕が見本を見せてあげる」と言わんばかりの表情で、イカ焼きに加わって下さいました。「さすがSさん手馴れているな～」とただただ関心してしまう職員でした。



また、ユニットの浴室を一日解放し、温泉企画を行ないました。3時間ごとにお風呂を入れ替えそのたびに入浴剤も違うものを用意しました。入浴剤はあらかじめ用意したものの中から選んでいただきましたが、スキンケア成分のある入浴剤を選ばれる方が多いことに驚きました！お肌を気にするお年頃ですね！

時には調理も行い、生活スキルも磨いています。サンドイッチ作りでは自分の好きな具を選んで自分でトッピングして頂きました。控えめに1種類のみトッピングをされる方や反対に全種類トッピングをされる方、具だけを食べられる方など、一人一人の個性がとても良く表れており、職員も新たな一面を発見することが出来ました。



その他にもカラオケやお誕生日会等も行っています。カラオケはプロジェクターで映像を流し、ユニットを即席カラオケBOXにしました。マイクを1番に握ったのはカラオケ大好き〇さん。あれもこれも…となかなかマイクを手放そうとしません。本当にカラオケが好きなのだと感じ、早くカラオケBOXと一緒に行けるようになったらな…と思いました。

コロナウイルスが落ち着いたら、また皆さんで外出をして、楽しい時間を過ごしたいと思います。

## ある日の休日 マリエ2階

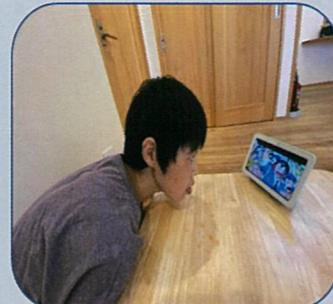
### コロナ禍だから見えたこと

コロナ禍の中、思うように出かけることができず、外食も出来ない日々が続いている。

Nさんは普段は大好きなマンガに囲まれて過ごされていますが休日や日々の生活中で少しでも楽しみを見つけて頂きたいと思い、好きなアニメ動画や歌を聴きながら過ごせるように、Google Playを提供してみると新たな発見がありました。

今まで見ていた動画や歌よりも、実はアニメを見ながらアニメで流れる歌を聴くのが好きみたい…。特にウルトラマン、ドラえもん、ルパン三世など、兄弟がいらっしゃるので、男子が好きなアニメを一緒にみていたのかも知れませんね。日々の生活に取り入れるようになってから、アニメソングを違うものに変えて欲しい時、好みじゃない時など職員を呼んで下さることが増えているのです。職員も「はい！今行きますね」と笑顔でお答えするしつかり職員の目を見て伝えて下さるのです。「これで大丈夫ですか？」と声をかけると満足されたよう集中して見ていらっしゃいます。時々、歌に合わせて一緒に歌つたりと、段々と表情が豊かになつてきました。

Google Playを使用してから職員と自分が合うこと、アイコンタクトまでいられないですが目で会話ができるようになつたように思います。少しずつですがご本人の気持ちの表出に繋がればと思います。今後も試行錯誤しながらご本人に合つたものを見つけていけばと思います。



## コロナ禍の中でもスキルアップ！ナウルの取り組み

### 笑顔溢れるhanahanaに♪

新しく始めた取り組みがあります。分別のゴミ箱を皆さんのに置くことです。以前は皆さん、台所に集まって職員にゴミの分別の仕方を聞きながらゴミを捨てていましたが、居室にゴミ箱を設置することで、ご自身でも分別する意識を持って頂こうと考え、スタートしました。職員が作った分別の仕方の表を見ながら、まだまだ職員の確認が必要ではありますが、以前より意識して捨てることが出来ています。



手作りケーキでお祝い！

週末のご家族へのお電話や、待ちに待った夏休みの帰省の日も、皆さんとても嬉しそうにされています。一緒にいると、笑顔にも種類があることに気づき、誰を思うか何を考えるかで、こんなにも表情に変化があるのだと知らされます。どんな状況であつても、ひとりひとりがしつかりと思いを出せるよう、それを職員がキヤツチ出来るよう、少しでも近づいて、今だからできること、そしてその先のことも、時間を大事に使い考えていきたいと思います。

## コロナ禍でも余裕のオハナ!!

グループホーム・オハナでも2月下旬からの外出や移動の制限に合わせて自粛生活に入り、今までに至っていますが、利用者さん全員コロナはおろか風邪も引かずに元気に過ごされており、むしろ更に自立性が上がっているようです。その様子をご紹介させていただきます。



皆さん各居室でそれぞれゆっくり過ごされています。  
Tさんの好みはバラエティ!

皆さん楽しみにされている食事ですが、以前はリビングにて召し上がっていましたが、現在では3密状態を避けるため各居室で召し上がっていきます。居室での食事となつたことで少し寂しく感じる利用者さんもいるかと思いまが人生経験豊富なオハナの利用者さん、まったく動じることなくそれぞれの居室で静かに召し上がっていきます。これを機にOさん、Tさんの居室には冷蔵庫やレンジなど家電を取りそろえ、自身で準備し自身のペースで召し上がるopportunitàが出来ると嬉しそうな様子です。

余暇時間も居室でテレビ鑑賞や読み物をしながら過ごされる時間が多くの人がいますが、Tさんの居室にはテレビが無かつたためテレビを設置し、全居室にテレビ完備となりました。仮面ライダーの放送が始まつたときに主題歌に合わせて歌われている声が居室から聞こえてきたのはとても驚きました。買い物では、職員が代理で欲しいものを購入することをお伝えすると、現在では毎月欲しい雑誌が決まっている方は話してくださいました。「また来月もよろしくね」と職員とのコミュニケーションも含めて楽しみにされているようです。散髪も理髪店に出かけず上手な職員にカットしてもらいました。これがお気に入りとなり、Hさんは少し髪が伸びてくるとハサミのジェスチャーをしながら、散髪を要望して下さり、職員も大忙しです。

今後も利用者さんと職員とのコミュニケーションは密にしながら、コロナ禍が終息したころには更に成長した姿をお見せしたいと思います。



親御さんからも、夏の長期帰省に向けて、マスクを着けられるよう練習をして欲しいと要望が出ていました。帰省までに外出時のマスク着用が習慣になり、帰省中も親御さんとマスクを着けて無事買い物に行く事もとても喜んで下さり、職員もほつと一安心。利用者の皆さんにとって『感染症予防』は理解しにくい面もありますが、新しい変化に適応し始めている姿を見て、職員も嬉しく感じています。



## マスクをつけた美男子たち

メリヤー階では、コロナ禍の対応として作業出勤前時のマスク対応が課題になっていました。変化に敏感な利用者さんも多くいらっしゃいますが、一ヶ月程、毎朝繰り返し着用を促していくうちに、皆さんマスクを着ける事が出来るようになりました。初めは着用への抵抗感が強く毎日十枚近くマスクを破いてしまった方も、今では職員がマスクを手に持っていると、それが出発のサインになつているかのように表情よくマスクを着用して作業に出発されています。

今年1月に始まった新型コロナウイルスの影響は、自粛一色の中でのゴールデンウイークを経て、ようやく小康状態となったものの、第2波・第3波に対応するため難しいかじ取りが今も続いている。そうした中で『新しい生活様式』といった言葉が聞かれるようになりました。しつくりこないこともあります、テレワークやリモート会議といった、これまで「食べず嫌い」的に敬遠されがちであったことが見直されていることは面白い現象だと思います。今回の『Ohana 50号』では、法人内で始まった新たな取り組みがいくつか取り上げられています。ここでは、8月21日から始まった毎週金曜日の「延長利用」について紹介します。



法人では、利用者の皆さんをコロナから守り、併せて潤いある生活を提供するにはどうすれば良いのか苦慮する毎日です。『かりん』『あゆーる』をはじめとする通所施設の在宅利用者の皆さん、そのご家族にも、短期入所や日中一時、移動支援などのサービスの利用もできる限り控えていただくようお願いしてきました。(一部緩和しています。) 感染防止のためとはいっても、こうしたお願いに伴うご家族の皆さんの負担軽減を目的に、毎週金曜日は18:00まで利用者の皆さんをお預かりし、夕食を提供するとともに、希望者にはシャワー浴もしていただくこととしました。

## 金曜日が待ち遠しい!! ~延長利用~



ご家族のレスパイトを目的として始めたこの取り組みですが、利用者さんの中には、延長利用で見るYouTubeや夕食を楽しみにされ、金曜日の通所がスムーズになった、といった方もおられます。16時に通常の支援が終了した後は、ドライブを希望される方、動画を見る方に分かれます。動画は3~4つのグループに分かれ、嵐のコンサートやディズニーの映画、アニメなどをYouTubeで選択し、夕食準備ができる17時過ぎまで楽しめます。食い入るようにディズニーの映画を観られる方、嵐のコンサートを観ながら思わず立ち上がって歌い始める方も。ドライブから戻ってきた方もこれに参加されます。また、仲間同士大好きなアイドルの雑誌を一緒に見て過ごされる方も。今後はデザート作りなども考えています。



もう一つの楽しみである夕食は、キラナの職員にメイン料理とサラダ・スープの提供(下拵え)をお願いし、月1回はマロン工房のバーガーやピザをメニューに加えています。利用者の皆さんの余暇の過ごしが始まると女性職員の出番です。ガスやIHを駆使して時には麺をゆでカレーランチやチャーシュー麺を、時には炊飯器の熱々のご飯で焼き鳥丼や牛丼を仕上げ、短い時間内に各エリアに配膳してくれます。母の力、女子力を存分に發揮してくれます。



金曜日は単に利用者さんをお預かりする時間を延ばすというだけでなく、楽しんで過ごしていただける2時間、待ち遠しい金曜日となるよう心掛けています。18時からはバスと公用車での送迎を行っています。金曜夜の送迎バスを運転してくださる運転手にも感謝です。また、送迎を終えて添乗職員が帰ってくるのは20時近くになります。金曜日の延長利用の意義を理解し、前向きに取り組んでくれている職員にも感謝です。コロナが終息し、皆様に日常が戻って来るまでもうひと頑張りです!!



## 相談支援、どうする? ソーシャルディスタンス

平成24年、国が相談支援事業を立ち上げてから8年が経ち、相談事業所カラもまた、おかげさまで8年を経過しました。利用していただく皆様への対応が少しは満足していただけるものになってきたのではと感じていた矢先のコロナの状況です。

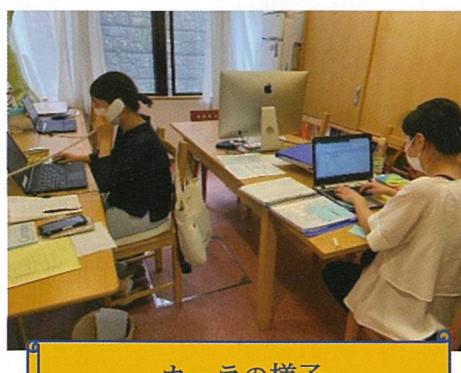
相談事業には面接も、会議も必須です。職員の働き方をどうするべきか悩みました。子供を保育園に預けながらの職員、遠方からの電車通勤の職員たち、それぞれに抱える感染リスクも高いものがありました。カラはまつぼっくり内に事業所を構えており、入所にコロナを持ち込めない。そんな思いも強くありました。

そこで、職員は全員リモートワークに切り替え、電話対応を基本としました。職員間はZoom会議で現状確認を行うこととしました。新たな試みはその都度、役所の判断も仰ぎながら、コロナ禍ゆえに柔軟な判断もしていただきました。業務用のスマートフォンが、電波受信が安定せず、利用者とのやり取りに苦戦したこともありました。現在は通常の業務に戻りましたが、リモート面接や会議の導入をしてきました。コロナ禍で培った手法は時間短縮などにつながっています。とはいえ、すべての方がリモート会議に慣れていますが、行政・学校も少しずつリモート参加で対応してくださるところが増えてきました。コロナ禍で培った手法は時間短縮などにつながっています。

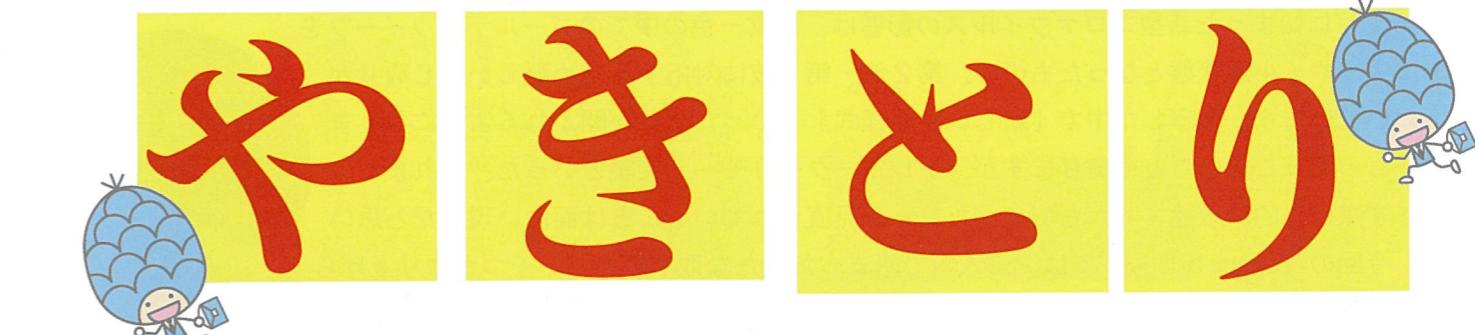
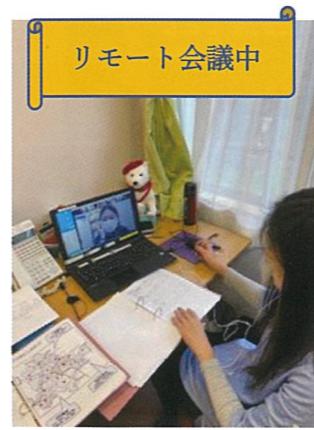
さてコロナ禍で利用者さんには何が起こっていたか。在宅の利用者さんについて、在宅自粛期間中の変わらない生活リズムの中非常に落ち着いた事例と、気持ちや行動が不安定になった事例に大きく分かれました。落ち着いた事例については、通所や通学が始まってからしばらくは逆に落ち着かなくなり、自粛開けの連携が必要になりました。不安定になったケースについては、自粛下でも利用できる事業所を探したり、家庭での関り方、過ごし方を模索したり、自粛中の対応が多くなりました。入所系施設の利用者さんについては、特に法人内の方は活動やお楽しみをそれぞれに工夫していましたが、大きな混乱は見られなかったご様子です。

現在、松戸市自立支援協議会相談支援部会でも、コロナ禍での相談支援の振り返り、浮き上がってきた課題の整理を行っています。在宅自粛期間中、心配なケースを把握したくても事業所や家庭訪問もできず支援が後手になった/不安定だった家族関係が更に悪化した/感染への強い恐怖から外出や人との接触を拒否し医療や支援が中断され生活環境も悪化。亡くなっているのが発見されたケースもあった/重度の知的・身体障害のお子さんがいる家庭では、家族の精神・体力が限界となった/等々様々な事例が挙げました。また訪問の仕方についても、どうしたら感染を防ぎ安全に面談できるのか、消毒、マスクは当たり前ですが、窓越しならどう? 対面の距離は? 書類やペンはどうする? リモートでの面談や会議で本当に利用者さんの現状は把握できる? 現場で対面することの重要性もあるのでは? などなど様々な意見が挙がっています。

新型コロナウイルスにより変容した世界、以前と同じ世の中に本当に戻れる日が来るのかいまだ見えないのが現状です。コロナであろうと何だろうと利用者さんの生活、人の人生は良くも悪くも変化していくもの。相談支援が、人と話し、関わり、接し、感じ、そして支援を描き続けるという役割も何ら変わりありません。新しく迎えた時代、変容した世界の中でどのような支援がふさわしいのか暗中模索真っ只中。日本中・世界中の相談支援を生業としている人々は、悩みながら、探しながら、今日も走り続けています!!!



カラの様子



末から営業を見合っていたキラナの焼き鳥販売をこの度、8月から再開致しました。営業するにあたっての対策として、販売で使用する物品の消毒・販売員のマスクの着用を義務付けております。また、対策の一環として新たに券売機を導入致しています。コロナ禍での新たな販売様式となり、お客様側での操作が必要になりますが、対面なく金銭のやりとりができる様になつた結果、販売員の負担も少なくスムーズな運営が出来るようになり、新たな利点が生まれました。

販売再開後、以前のように客足が戻るかどうか懸念されていましたが、看板や口コミを聞いた常連さんやご近所の方が続々と来店されるようになりました。また、リモート家族会にて発信を行い、多くの親御さんにお越しいただいています。焼き鳥の売上については利用者さんの工賃へ反映されるため、販売が再開された事により、利用者さんも焼き鳥の串差しや整理券の並べ直しといった準備に携われても嬉しそうです。

また、現在はコロナウイルス対策の観点から、利用者さんが販売に携わる事は出来ませんが、収束のタイミングをみて販売へ加わって頂こうと思っています。

皆様、今後ともキラナの焼き鳥の応援をよろしくお願いします!

★券売機は、後援会ハーモニーのご協力を得て設置しました。この紙面をお借りして、改めて御礼申し上げます。

## <療育プログラム>

ハグピアでは NPO 法人 ADDS が開発した保護者参加型の個別療育「ペあすく」という療育支援を提供します。支援においては「ABA(Applied Behavior Analysis:応用行動分析)」という理論体系に基づき、お子様一人ひとりの課題をスマーブルステップで設定し成功体験を積み重ねながら発達を促進いたします。セラピスト(支援者)と保護者様がチームになってオーダーメードのプログラムに基づきお子様への個別支援を行います。必要に応じ、ご家庭でもできる具体的な療育の支援方法をお伝えし、実践に関するアドバイスなども行っています。また発達検査や知能検査、行動観察の結果をもとに課題を構築し適宜更新していく療育方法です。



テキスト+e-learning 形式の講座  
+課題シート



## <セラピーの様子>

1ケース 80 分で行います。子どもがそんなに集中もつか?と思われますが、課題の合間におもちゃで遊んでもすごすのであつという間に時間は過ぎていきます。おもちゃで遊んでいる間も学びの時間となり、道具の使い方や遊び方を通して他者との関わりなどを教えていきます。保護者参加型なので、保護者の方にも課題の進め方などを学んでいただきます。セラピーの前後で実践し練習していただき、家でも行ってもらいます。セラピスト(支援者)に知識やスキルが必要な療育方法なので、毎回毎回試行錯誤しながら行っています。



# 児童発達支援事業所ハグピア



多くの方々のお力添えにより、令和2年11月1日付で無事に開所いたしました!!

社会福祉法人まつど育成会は、平成16年4月に障害者支援施設まつぼっくりを設立以来17年間、知的障害者の生活支援をしてきました。困難事例の多くは知的障害や発達障害により、適切な療育の難しさが原因で大人になってから苦労していました。子どもの頃にその子にあった療育が出来ていれば…。そのような想いから児童発達事業所開設に向けた動きが進みました。事業所が建設されている場所は、近くに公園や畑があり、とても穏やかな場所です。



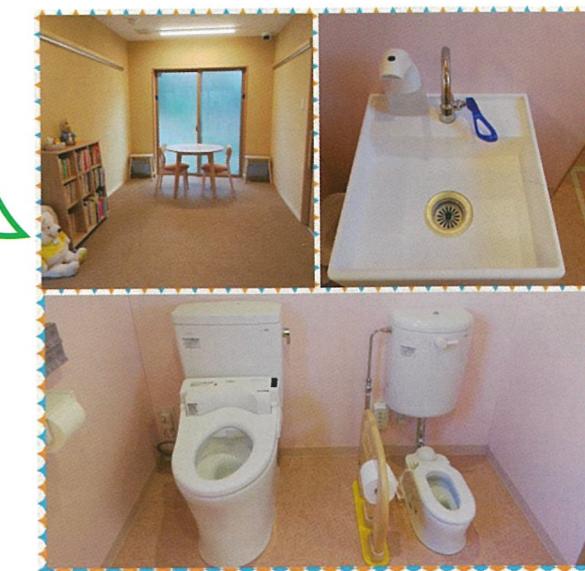
事業所名の「ハグピア」は、育む・Hug(抱きしめる)とPeer(同僚、同輩、同級生、仲間、友人、対象者などの意味)をかけ、子どもの成長を保護者と支援者が共にあたたかく見守り育てる、という意味を込めて名付けました。



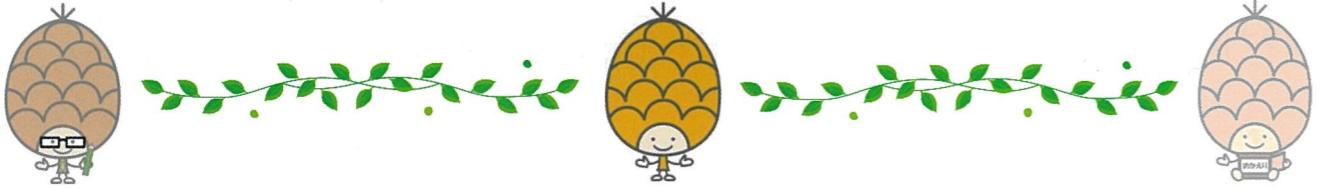
「早期発見・早期療育」、保護者の気づきに寄り添い、疑わしい段階も含め、診断の有無や種類にとらわれず、言語や社会性の発育成長が著しい幼児期(未就学児)に介入します。また「学べる場」として整った環境で、親子一緒に学び歩み、双方が成功体験を培い、日常生活の基盤をつくることをめざします。



子ども用の可愛いトイレとリラックスできる待合室。



# ハーモニー通信



第 50 号 (2020 12 29)  
発行元 後援会「ハーモニー」事務局  
住所 松戸市六実 1-64  
社会福祉法人まつど育成会内  
TEL (047) 389-4172

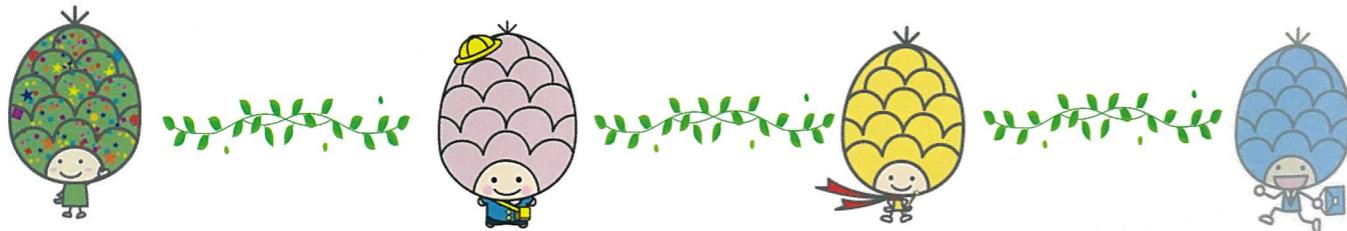
## 「後援会ハーモニーの活動」に参加して

久保 昇

ハーモニーの役員になって早 3 年半が経過しました。その間先輩役員の方の助けを借りて何とか勤め  
て来られたと言うのが正直な気持ちです。

令和元年度の活動としては、1. 「六高台さくら祭り」の手伝い 2. Ohana 年 3 回の発行 3. 総会の  
実施 4. 「松戸まつり」の実行がありました。特に毎年 10 月初旬の土日に行われる「松戸まつり」は  
緊張します。出店が多く、厳格なルールで器材の運搬・撤去を瞬時に行わなければなりません。家族会  
の会員の方の応援を受けながら 8 名の役員が 2 日間手分けして行うわけです。気持ちは若いのですが、  
歳には勝てず悪戦苦闘しています。令和元年度は市役所主催の「パンフェスタ」が近くで行われたこと  
もあり強敵でした。2 日間とも何とか販売完了した時のほっとする気持ちは何とも言えません。今回は  
子供達 3 名の参加が実現出来、以前の売上げ一辺倒から、少しハーモニーのカラーが出せたかと自負し  
ています。今後とも微力ながら会の発展に尽くしたいと思います。

(追記)「新型コロナウィルス」の収束が見通せません。早坂統括施設長始め職員の方のご尽力には、  
感謝の気持ちで一杯です。有難うございます。



コロナウィルスに  
負けるな！！

## 医務室だより

うがい・手洗い・マス  
クをしよう！

日頃より医務活動においてご理解とご協力あり  
がとうございます。

今年度は、新型コロナウィルスの感染防止として  
予定されていたイベントの中止、帰省の制限等、例  
年とは違う状況であります。医務の役目として、利  
用者様が元気に安心安全に生活できるように、また、利  
用者様・ご家族様・職員が同じ方向を向いて  
感染予防ができるように対策に努めています。

ふむふむ

歯科衛生士から説  
明を受けます。



歯科衛生士  
から直接指  
導もして頂き  
ます。



ご自身でも磨  
けるように練習  
します。



緊急事態宣言が発令されている時には、緊急時の診察以外  
は医務で代行通院をしておりました。現在は少しずつ緩和され、  
休日前の受診や予約をして受診をする、リモート受診等の  
工夫をしています。また、訪問歯科に関しましては、3月から  
6月までは中止にしておりましたが、7月から再開していま  
す。帰省時等でご家族と歯科通院されていた方に関しまして  
も、現在は順次無料検診を行い、その後歯磨き指導や治療に入  
らせていただいている。7月に再開して口腔内の状態を見  
て頂きましたが、利用者さんの新たな齶歯があった方はいま  
せんでした。また、コロナ対策前には、診療時に離席したり、  
口を開いてくれなかった方が、現在は支援員の声掛けや誘導  
できちゃんと着席して診療できている点には驚いています。  
また、利用者さんと一緒に支援員が歯磨き指導を受けており、歯  
磨き後の仕上げ磨きも上手くできていると歯科医にもお褒め  
の言葉をいただいている。今後も、口腔内の清潔と歯磨き指  
導に力を注いでいきたいと考えています。

次は何を受  
けるのかな…



採血…  
ドキドキ…



～健康診断の様子～



聴力検査  
も行いま  
す。